

「MIELS 三重県救急救命統合コース」 の開催と運営における指導救命士の役割

～指導救命士の自立をめざして～

三重県救急搬送・医療連携協議会

(2017/11/22)

三重県救急搬送・医療連携協議会 メディカルコントロール専門部会委員¹⁾

三重県救急搬送・医療連携協議会 認定指導救命士²⁾

宮崎伊佐夫²⁾ 竹内洋司²⁾ 松田健司²⁾ 富田泰成²⁾ 説田守道¹⁾

三重県における指導救命士の必要性

- 多くのプロトコルに関する伝達講習
- ブラッシュアップ(集合研修による再教育)
- 追加特定行為の認定講習の指導者



MC医師と共に指導側に立つ人材育成が必須

- ・平成23年から三重県独自の指導救命士養成を開始

現在60名の指導救命士が在籍

指導救命士の自立への歩み

指導救命士として最低限必要な
指導スキルと知識



生涯学習への取組
(企画、運営、指導)

PDCAサイクルの
構築

若手救命士の
ロールモデル



養成から育成、そして自立へ

MIELS* (三重県救急救命統合コース)の開催

指導救命士自立への第一歩としてMIELSを開催

大目標: 三重県の救命率・社会復帰率の向上

医療機関への実施基準やプロトコルの周知

医師等と救急隊員が同じ課題に取り組む
“楽しい”イベントを開催する

- 三重県救急救命指導者セミナーの一環として予算化
- 三重県内の医療・消防機関への趣旨説明
- 企画・運営のスターティングメンバーに**指導救命士**を選出

コースコンセプト立案から
指導救命士が中心となる



MIELS開催の目的・概要



- 1 医療と消防の連携強化
- 2 標準化された救急医療の知識と技術の向上
- 3 指導救命士の指導者としての自立
- 4 コースから得られた知見を次の教育や救急活動へ反映

重視したコンセプト

- ・ガイドラインやプロトコルの遵守
- ・医療と消防の連携強化
- ・接遇(知識・技術・親切)

日時:平成29年10月15日(日)

場所:三重県消防学校

参加チーム:三重県下の医師、看護師、救急救命士等、6名1組で15チーム

スタッフ:91名(指導救命士35名)及び三重県消防学校救急課程学生81名

内容:内因性・外因性疾患及び多数傷病者への対応をシミュレーション

後援:三重県消防長会

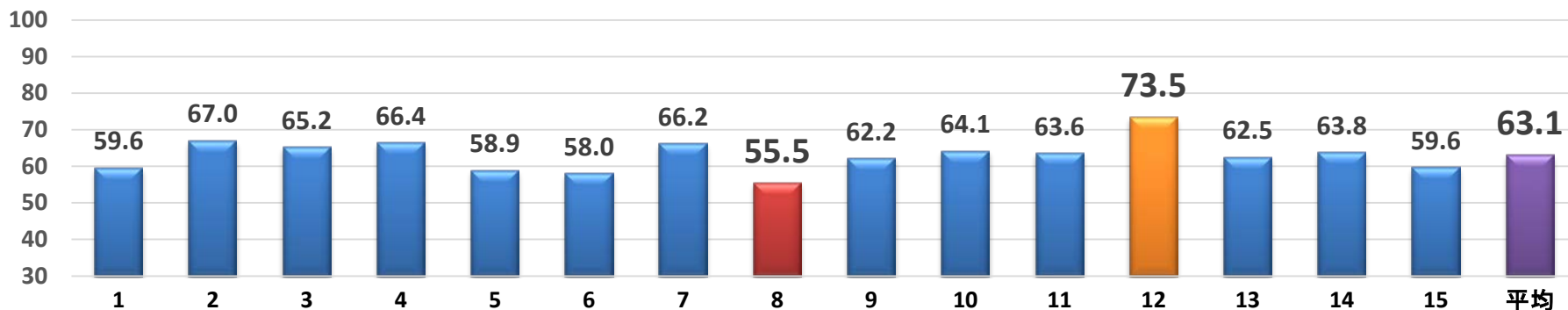
MIELSにおける学習効果を向上させる工夫

1. ブース長に指導救命士
 - 指導救命士が各ブースの企画・運営・管理
 - 指導医師は開催までブーススタッフを指導し、当日は受講者を指導
2. PDCAサイクルの構築が可能なブース運営
 - 本コースが次の教育や救急活動へ反映出来るようなプラン作成をブース長の課題とする
3. 双方向評価を採用
 - 受講者がプロトコルに忠実に活動したかを評価
 - 受講者も各ブースの運営状況を評価



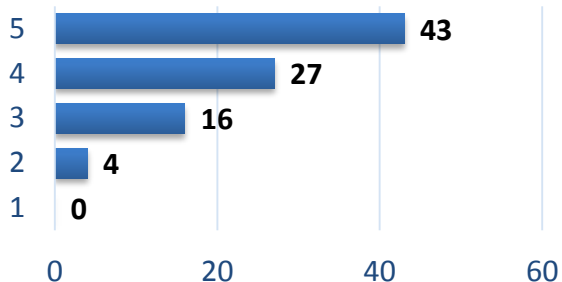
コース開催結果

参加チーム評価結果(得点率%)

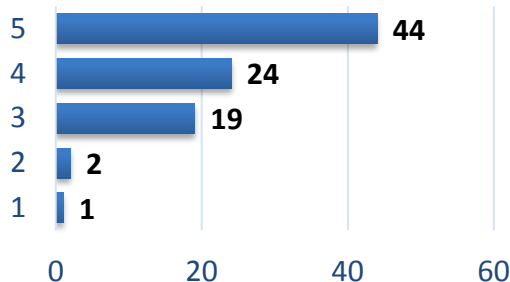


ブース評価結果(5段階評価)

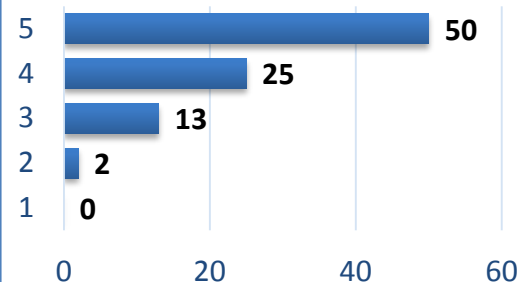
シナリオはプロトコルや搬送実施基準など医学的根拠に基づいた内容であった。



フィードバックや指導は適切で成人教育の概念に沿った内容であった。



シミュレーション実習が、今後の救急や臨床に役に立つ内容であった。



考察と結語

- 指導救命士の自立を目指し、医療機関と消防機関との連携を強化するため、指導救命士が中心となり三重県救急救命統合コース(MIELS)を開発・実施した。
- 現場活動に即した評価項目に対し、受講者の達成率は平均63%であり、これを是正する対策が必要と考えられた。
- 受講者からのコースの評価は良好で、スタッフの達成感も大きかった。
- 三重県救急救命統合コース(MIELS)の開発と実施は、三重県指導救命士の自立のために役立つと考えられる。